

全国からのユニークな夢の実現を手伝い、町を活性化

沖 縄 商 工 会 議 所

機関名	沖縄商工会議所		
所在地	沖縄県沖縄市中央4 - 15 - 20		
電話番号	098 - 938 - 8022		
地域概要	(1)管内人口 12万6千人	(2)管内商店街数 19	商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 16	(2)会員数 -	商店
	(3)空店舗率 - %	(4)大型店空き店舗数 0	店
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成12年度	商店街活性化対策事業	バーチャルモール構築、イベント
	総事業費	19,311千円
平成13年度	空き店舗対策事業	チャレンジショップ
	総事業費	28,315千円

【事業実施内容】

1. 背景

沖縄県沖縄市は、沖縄本島の中部に位置する那覇市について県下第2位の都市である。人口は125,762人（44,720世帯）、市域の37%を米軍の基地が占めることもあり国際的な色彩の強い街でもある。市の産業は3次産業が78%を占めており、65歳以上の高齢者比率は12.5%と低い。

同市はまた、伝統文化と異文化が融合し独自の文化風土をかもし出している土地柄でもある。沖縄の伝統芸能「エイサー」が盛んで、若者が多く参加している。

近年、近隣市町村の急激な商業の発達やモータリゼーションの進展への対応の遅れ等の原因により人口、商業などの流出が顕著になった。その結果、諸見地域、胡屋地域、コザ十字路地域を軸とした中心市街地の商業サービス機能が低下を招くにいたった。これら各商店街ではイベント等、試行錯誤で販促活動を展開し生き残りを図ったが、中心市街地の衰退・空洞化に歯止めがかからず、平成12年には中央パークアベニューには15件もの空き店舗が存在し、「シャッター通り」の様相を呈するまでに至った。



中央パークアベニュー

このような状況の中、平成10年度には中心市街地活性化法を沖縄市でもいち早く取り入れ、

中心市街地発展のための基本的な行動方針をまとめた「沖縄市中心市街地活性化基本計画」を平成 11 年度に策定した。

本構想では基本計画で定めた基本方針「コザ文化の醸成とコミュニケーションの街づくり」の理念に則り、行政と地域の役割を明確にしながら、地域が主体となり、地域資源を有効活用してより魅力的な街を形成することを目的とし、事業の着実な実施のために地元住民一体となって構想策定に取り組むこととした。

2. 事業内容：

沖縄市 TMO 構想における実施事業は以下のとおり（バーチャルな面から商店街活性化を図る「e まちなっと KOZA」や、空き店舗対策事業としての「ドリームショップグランプリ」は、この TMO 構想の一環として実施されている）

- 1) ファサード整備事業
- 2) 空き店舗対策および活用事業

空き店舗の発生を抑え、商業活動の停滞を打破する為にはキーテナントを含む空き店舗の大規模な改革が必要である。本事業では、このような総合的な空き店舗対策事業を効率的に実行するため、空き店舗に関する情報を一元的に管理運営するほか、その地域に適合し、さらに外部の視点で見た斬新かつ有効なアイデアの導入（ドリームショップグランプリなど）を図ることにより、中心市街地へ集客を図り、ひいては商業者全体の活性化を図る。

- 3) テナントミックス事業
- 4) 情報発信強化事業

地域資源を統合的かつ効果的に発信することにより観光入込みの増加を図る。各商業者に対してその技術を習得するための機会と施設を提供する事業を展開する。

- 5) 観光による活性化
- 6) バリアフリータウン整備
- 7) 駐車場誘導システム整備

（平成 12 年度事業）

- 1) 中心市街地商店街等の情報発信

ホームページ「e まちなっと KOZA」を作成し、

- ・インターネットを活用した地元客、観光客集客の為の商店街情報発信
 - ・嘉手納基地周辺の軍人の集客の為に上記の英語での発信
 - ・空き店舗解消の為の空き店舗情報の発信
 - ・沖縄市内で開催されるイベント情報、催物案内
- などを行う。その他、以下のような機能を持たせた。

- ・ネットオークション

各商店の季節商品の在庫処分、一点モノ、限定品など販売を行う。

- ・ファックス利用電子掲示板

ホームページを作成した個別店舗の掲示板にファックス送信による手書きの絵や特

売情報の掲載を可能にする機能。

- ・ E m a i l のファックス送信

インターネットユーザーからの電子メールでの問い合わせに対し、ファックスにて、個別店舗へ送信する機能（利用者からの注文や問い合わせに対し店舗にパソコンがなくても即時に対応可能）。

- ・ 空き店舗情報データベース構築

商店街振興組合等に設置されているパソコンより、インターネットを介して、商店街の空き店舗情報をサーバーに登録・修正・削除などの管理、ホームページに掲載するシステムの構築（商店街独自で、空き店舗情報管理、情報更新が容易にできる）。

- ・ イベント、催物情報データベース構築

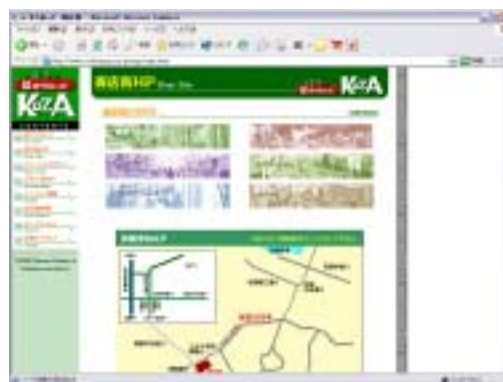
商店街振興組合等に設置されているパソコンより、インターネットを介して、商店街のイベント、催物を登録・修正・削除などの管理、ホームページに掲載するシステムの構築（商店街独自でイベント、催物情報管理、情報更新が容易にできる）。

2) 商業者教育講座の開催

商店主、商店街事務局へのインターネットを活用した情報発信の研修等の実施。

3) 情報発信システムのマニュアル作成

情報発信システムの効率的に運用するためのマニュアルを作成する。



E まちねっと KOZA
(左上)トップページ
(上) 商店街案内
(左) 空き店舗検索画面

(平成 13 年度事業)

(1) ドリームショップとは

平成 12 年度に事業化されていたドリームショップ事業は、沖縄市中央パークアベニューのセンター商店街振興組合により構想され、全国の起業希望者を対象としている。商店街内の空き店舗を生かし、ユニークで特色ある事業を展開したいという企画を募集する。審査の結果、グランプリに選ばれた場合、賞金として 50 万円、店舗・家賃を一年間保証、準グランプリには家賃の半年間の保証を行うもの。このことにより、応募者の夢の実現の支援、商店街の特色作りと活性化を図るものである。

(2) 平成 13 年からは TMO を活用

平成 13 年度は商店街活性化対策事業を導入し、事業運営に TMO を活用する形でドリームショップ事業を実施した。その結果、平成 13 年度は 2 回(第 4 回・第 5 回)のドリームショップグランプリが開催されている。

現在も事業は継続して行われており、平成 14 年 12 月現在、県内、移住を希望する県外在住者からの応募による 8 店舗の個性豊かな店舗が出店している。なお、出店した経営者の年齢は 30 代から 50 代である。

・ 8 店舗のプロフィール

サンバライブ居酒屋「オ・ペイシ」

パンツ&スカート専門店「ハレルヤ」(平成 13 年 10 月都合により閉店)

雑食屋・「油喰小僧(アングケーボージャー)」

香水専門店「かおりやドリームショップ」

ショールームカフェ「e.co ルーム」

エイサー情報ショップ「エイサー会館」

「沖縄マーケット」

寿司&スープ専門店「SU - SU - SOON」

オープンカフェ「Koza Cafe」



ドリームショップの
ウェブサイト

インターネットを用いて県
外にも積極的に PR

【 効 果 】

(平成 12 年度事業)

(1) バーチャル市場へのガイド効果

インターネットの活用によって、無限大ともいえる商圈の拡大可能性を商店経営者に提示できたこと。

(2) IT時代の商業変化への意識醸成効果

ファクシミリさえ普及していない商店街がこの事業の実施により、IT時代の商業のあり方を考える契機となったこと。

(3) 情報機器導入効果

この事業への対応として、すでにパソコンを導入した商店が10数カ所数えており、確実に商業者の積極的取り組みがはじまりつつある。

(4) ネットオークションの展開効果

ネットオークションを試みたところ、取引が行われており、今後のより一層の展開への期待感が生まれている。

(5) 「eまちねっとKOZA」へのアクセス効果

事業オープン、約3ヵ月間にアクセス数が105,067件を数えており、沖縄市内外の消費者の関心度がうかがえる。インターネットアンケートによる意見・感想等によると、「ライブハウス情報」、「イベント情報」、「沖縄旅行前の情報収集」、「ネットオークション」等への関心や評価がなされ、一定のアクセス効果がみられる。

(平成 13 年度事業)

ドリームショップ事業と空き店舗対策事業を同時並行して取り組んだ結果、序々に来街者が増え、街に明るさが戻ってきている。それはまた、まちづくりへの経営者・住民の意欲的な参加と意識の向上をもたらした。

またドリームショップ事業は、多くのマスコミを活用し、人脈などを生かすことでコス

トをかけずに記事の掲載をしている。また、ホームページを作成したことにより全国的に認知度を高めており、全国各地よりドリームショップへの応募が寄せられている。また、議員団や商店街の関係者が視察に来市するようにまでなった。

【課題・反省点】

(平成12年度事業)

(1) 個別商店街の対応能力の育成

パソコン操作等を含めたIT時代に対応し得る個別商店の能力アップの必要性。

(2) 振興組合・通り会の情報処理技術の向上

コンテンツ修正権を振興組合等に譲渡し、システムをより効率的にするためには振興組合等の対応能力が課題となっている。

(3) 仮想商店街としての魅力アップ

(4) 情報発信から売買取引への展開

本格的なeコマースへの展望をもつことが、発展に欠かせない。

(5) 商店街等の活性化の推進

消費者が実際に来訪したときに現実の商店や商店街が魅力あふれたところでなければならぬ。従って最も重要なことは現実の商店街の活性化を図り、絶えず魅力あふれた状況を創出し続けることが重要である。

(6) 行政・商工会議所・振興組合等の連携

(7) 次年度以降の維持経費の確保

(平成13年度事業)

沖縄市のTMO事業、ドリームショップ事業を推し進めていく上では自己財源の捻出が大きな課題であった。これら事業に参加しているスタッフの意欲は高く、アイデアは豊富であったが、実際にそれを運用するための資金の確保に難がある。

ドリームショップ事業には、行政からの理解と支援が得られたこともあり、助成を受けている。

しかし、今後も新たな事業を展開していく上では資金調達は大きな課題である。



趣きあるチャレンジショップ

【関連URL】

eまちなっとK O Z A

<http://www.st.okinawacci.or.jp/index.html>

ドリームショップグランプリHP

<http://www.okinawacci.or.jp/dream/>

【 そ の 他 】

《ユニークな資金調達の実施》

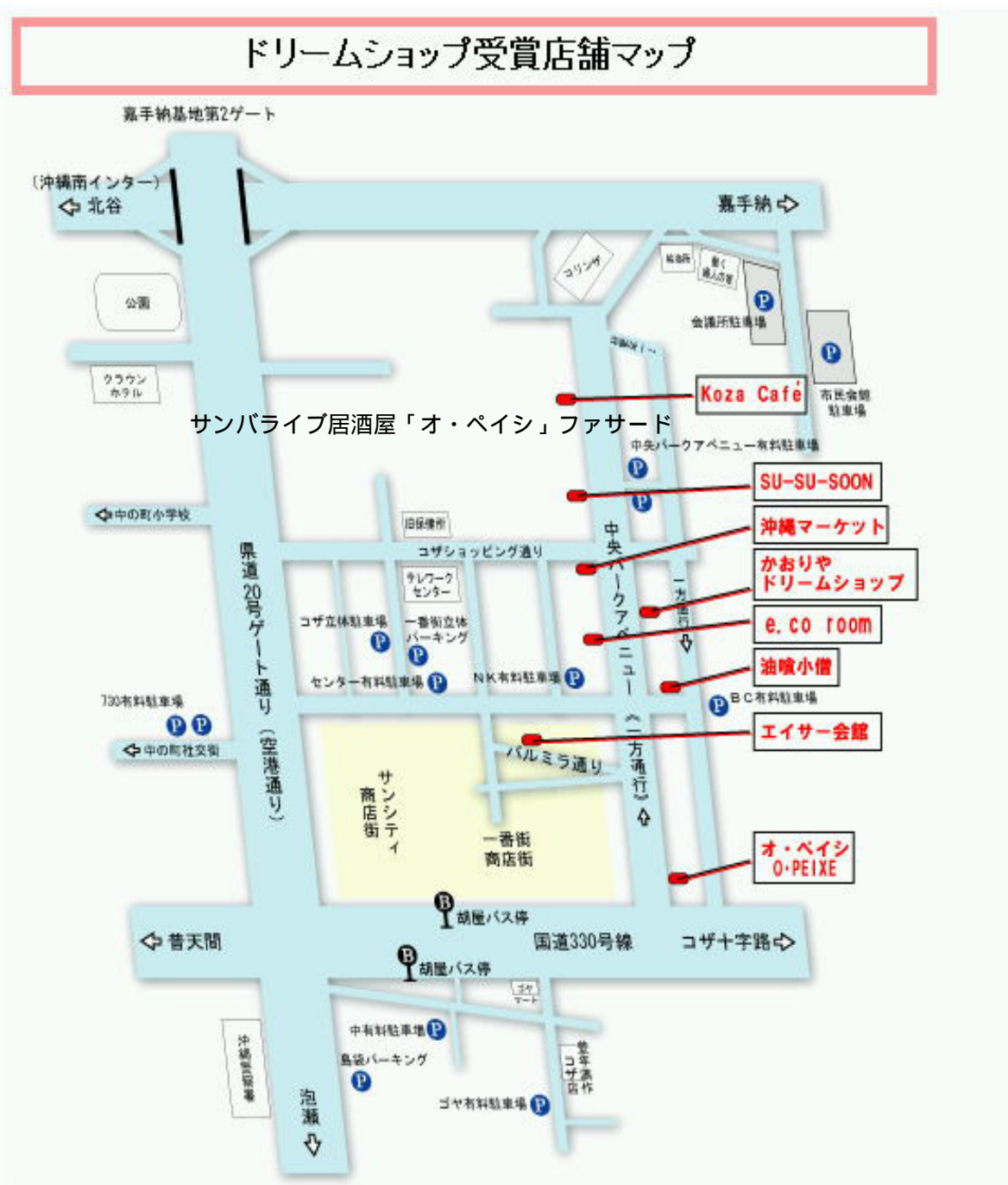
沖縄市は、米軍のもたらした欧米文化の影響が強いこともあり、独自の文化性を持っている。その影響もあり、沖縄市からは多くの全国レベルのアーティストやミュージシャンが輩出されている。これらのアーティストやミュージシャンに沖縄市における地域活性化事業への支援を取り付けたことにより、クリスマスライブを実施してその収益を商業者などの地域活動にも当てることが可能となった。

チャレンジショップ



寿司&スープ専門店「SU - SU - SOON」





ドリームショップの受賞店舗の出店マップ